

「ふえふき通信」

「障害者地域活動支援センター」

障がいのある方の

“思い”に寄り添って…

4月から、配属になりました。浅川『花』恵です。仕事を始めてから3ヶ月が経ちましたが、日々奮闘しています。その中で、初の大きな仕事、片付けることが大の苦手な障がい者Aさんの引越でした。

「引越しをしたい」と相談があり、訪問してみると家の中は荷物であふれかえっています。Aさんは、何が必要で、何が不要なのか、荷物の仕分けがまったくわからないのでした。そこで、障がい者の日常生活を支援している「どんぐり牧場」の横山さん夫妻に荷造りのお手伝いと不用品廃

棄をお願いしました。また、荷物の運搬は男衆ボランティアをはじめ、地域のボランティア、民生委員にお願いしました。

さあ、引越し前日、Aさんはあふれかえる荷物を前に呆然と立ちすくんでいます。そんなAさんに、横山さんは優しく話しかけ、「これは亡くなったお母さんの服だからとっておく？」と、Aさんの荷物について一つずつ丁寧に確認し、小さな物まで一緒に仕分けを行なっています。疲れて手が止まったAさんへの励まし方もとても上手で感激しました。そして「思い」に寄り添うとは、こういうことなんだと感じました。

当初、「支援センターふえふきでは、引越しも仕事なんだ」と、驚いていた私ですが、皆様のご協力をいただくことで、無事、支援することができました。「相談支援」の意味が少しわかったような気がしました。



どんぐり牧場さんにインタビュー

どんぐり牧場の横山夫妻にいろいろ聞いてみました！

Q Aさんへの接し方がとても上手だと思ったのですが、気に掛けていることはありますか？

A 自分の物すべて宝物だと思っんです。どんぐり牧場の利用者さんの中にもチラシやペットボトルを溜め込んでしまう人もいます。他人にはその価値は分かりにくいものだけど、当人にとっては価値のある物です。それを一方的に片付けるのは簡単だけど、その物に関するエピソードを大切に、何度もう声かけをするのが大事ですね。

Q 何度も繰り返し伝えていくことって根気が必要ですし、大変なことですね。

A これは止めましょうとか、前に注意したよねと伝えても、分からない、理解しにくいことがあるのって当たり前。やっぱり怒られることが好きな人っていないと思う

どんぐり牧場さんのご紹介



どんぐり牧場では現在障がいのある仲間7人が共に生活し、お互い支え合いながら農場の仕事をし、生活しています。横山さんは夫婦でどんぐり牧場とグループホームを経営しています。主な活動内容は養鶏場の作業や農園作業、牧場作業等です。卵は1軒1軒宅配しています。

Q このお仕事をやっている時、やりがいを感じる時ってどんな時ですか。

A 色々な支援の形ってありますよね。自分の子どももっていき、離れていき、親には寄り付かなくなるけど、どんぐり牧場の仲間はいつまでも自分のことを慕ってくれて誕生日には手紙をくれたりして、子どもがたくさんいるみたいで楽しいです。こうゆう感覚って普通の会社勤務とかでは味わえないことだと思いますね。

次回は私がレポートします。



◀ハートランド
ふえふき (7/4)

次回のふえふき通信は...

6/30 一宮夢ふうせん開所式

7/4 ハートランドふえふきをレポート!!

4月よりセンターに配属された川口慶です。私は、デイケアや農作業、家事教室など担当し、日中活動のお手伝いや日々の悩み等の相談を受ける等、センターを利用している方々と一緒に過ごしています。



一宮夢ふうせん (6/30)

